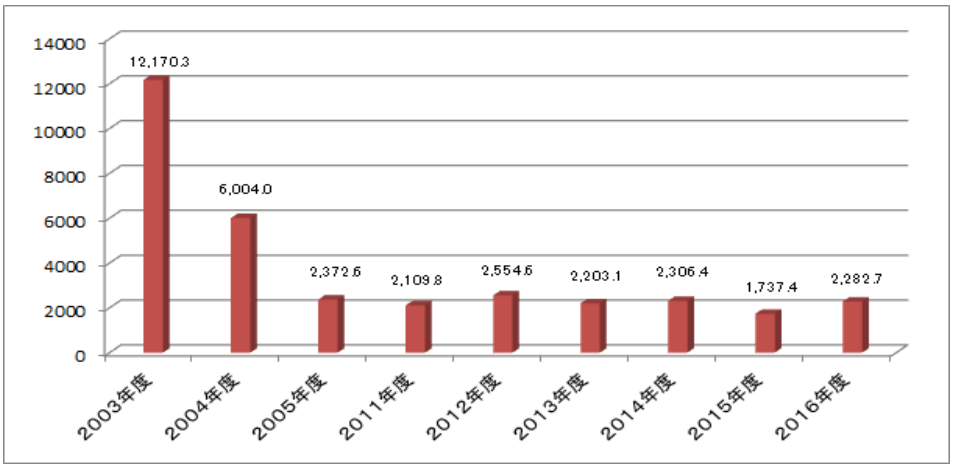
受賞者のその後の取組（平成 29 年現在）

平成21年度 文部科学大臣賞 受賞	受賞者名 **東京都立つばさ総合高等学校**
	所在地 **東京都大田区**
	受賞テーマ **学校全体で取り組む環境保全活動**

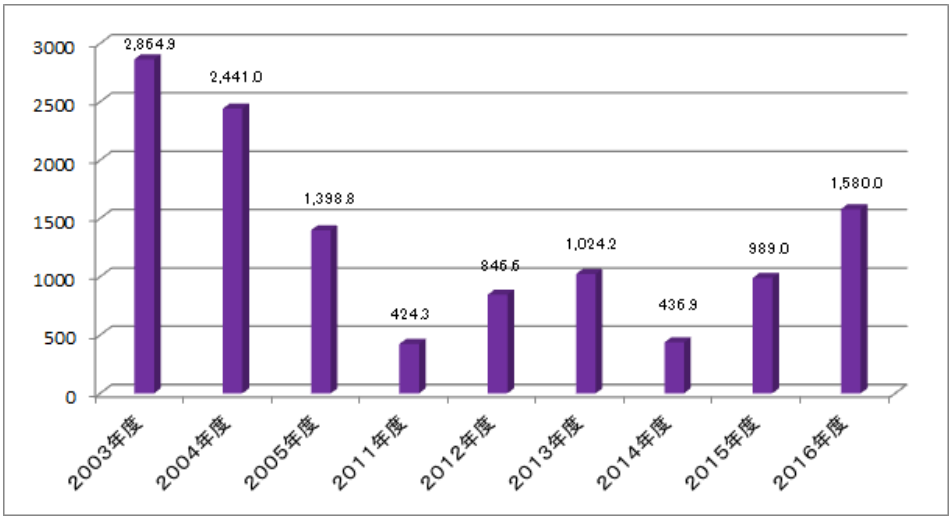
1.　活動継続　あり

ゴミの分別活動は分別方法が多少変わったが継続している。

毎年年度当初にごみの排出量の目標値（限界値）を決め、その目標を達成するよう生徒・教員が分別活動に取り組んでいる。



可燃ごみの排出量の推移（単位：Ｋｇ）



不燃ごみの排出量の推移（単位：Ｋｇ）

※２０１６年度はプラスチック資源の回収ができなくなった影響が出ている

2.　活動の広がり　あり

２０１６年度は新聞大手２紙の都内版に本校のゴミ処理について掲載していただいている。２０１５年度には米国環境保護庁長官が本校の環境活動の視察に来校、長官に生徒が英語でゴミ処理について説明を行った。また、本校のゴミ処理システムがコンテストで紹介され、その形を継承する学校も出てきている。環境関連の視察で本校を訪れる学校にもごみ処理のシステムを紹介する機会が多い。

米国環境保護庁長官（当時）の挨拶

生徒によるごみ処理の説明

校内においては、すべての教員が分別を経験するよう、またすべての生徒がゴミの廃棄に関わるようにシステムを作り直し、学校全体としての活動への理解に努めている。

また、回収した冊子や段ボールなどは、本校が所属する町内会の月に一度の資源回収に提供する事にしている。その際に希望する生徒が町会の大人の方と一緒に地域全体の資源回収を行って回るなどの機会を得ている。

町会に渡す雑誌・冊子類

地域での段ボール回収

3.　活動の進化　あり

ごみの排出量もおおよそ一定になり、現状のシステムではこれ以上削減が難しいと結論をだし、今までのリサイクル活動からリデュースの活動への質的な転換を図ろうとしている。特に学校特有の「飲料水容器」や「昼食のための容器」などの排出量の削減を工夫しようとしている。ただ、リサイクルと異なりリデ゛ュースの活動は成果が見えにくく苦労している。その活動の１つとして行っているのが、毎月一回行う「つばさ環境の日」の校門での呼びかけである。呼びかけで、ごみの削減や分別を取り上げている（廃棄物だけでなく電気使用量などの削減も呼びかけている）。

つばさ環境の日の呼びかけ

２８分別実験の様子

最近、リサイクル業者からプラスチックのリサイクルができない等の申し出があり、本校の分別の形も変化せざるを得ない状況が生まれている（原油価格が下がったためと聞いている）。社会全体の動きに敏感に反応する本校のゴミ処理システムは、対応に苦心する反面、より現実に近い位置で活動している事と捉え、生徒にとっては生きた教材となっているのではないかと考えている。

4.　今後の計画

従来の活動の継続はもちろんであるが、さまざまな状況の変化に応じて質的な変換を図らなければならいない時期に来ている。具体的にはリデ゛ュースを中心に据えた活動をどのようにシステムに定着させるかかという課題になると考えている。

5.　その他　特記事項

- ２０１６年度 つばさ総合高等学校 環境活動報告
- つばさ総合高校のゴミ資源の分別について
- 「つばさのゴミ削減活動」（東京都立つばさ総合高校 ＩＳＯ委員会）

2016 年度　つばさ総合高等学校
環境活動報告

2017 年５月
ＩＳＯ推進委員会

★８つの目標

1. 環境教育・活動の実施

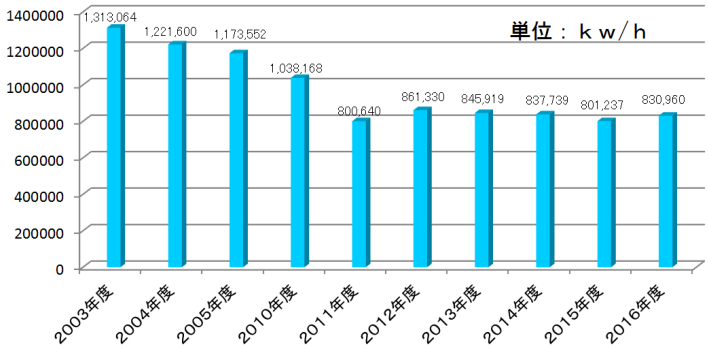
目標を前年度までの「（環境教育のために必要な）全教職員対象の教育訓練を年１回以上行う」から、「５つ以上の教科・特別活動での環境教育の実施」にあらためました。保健体育・商業などの授業や委員会活動ほか計６つで、環境保全に役立つ知識を学んだり実践に取り組んだりしました。

2. 環境関連の講演会の実施

目標は年１回以上。昨年度は「人間の『生きやすさ』も環境」という考えから、「どんな人も生きやすい社会を」と題した全校講演を行いました。講師は公益社団法人日本てんかん協会の方で、病気や障害のある人の気持ちや、ともに気持ちよく過ごしていくための知識などを教わりました。

3. 省エネルギーの推進（電力使用量の抑制）

過去の一定期間（昨年度は 2012～13 年度）の平均の一定量を維持する目標を立てて取り組んでいます。



昨年度も水準を維持＝目標を達成しましたが、教育活動などに支障はなく、校内の生活環境は保たれています。私たちは電力の過不足にかかわらず、こまめなスイッチオフや衣食の工夫を呼びかけて無駄遣いを省く活動を、今後も地道に続けていきます。

4. 環境に関して他校と交流

目標は年一回。昨年度も「高校生環境サミット」【後述】を、11 月２３日に実施。テーマに沿った基調講演と意見交換を軸に、高校・大学・企業・ＮＰＯによるパネル展示、高校生による実践発表が行われます。世代を問わず、また見に来るだけでも気軽にご来場いただける行事です。

詳しくは、３ページ目にある「高校生環境サミット」の記事をご覧ください。

5. 環境関連情報の発信

本校ＷＥＢサイトにブログを設置しています。昨年度も生徒の活動や環境サミットを中心に、毎月２回以上更新しました（目標は月１回以上）。

活動の様子などをＷＥＢからもせひご覧下さい。

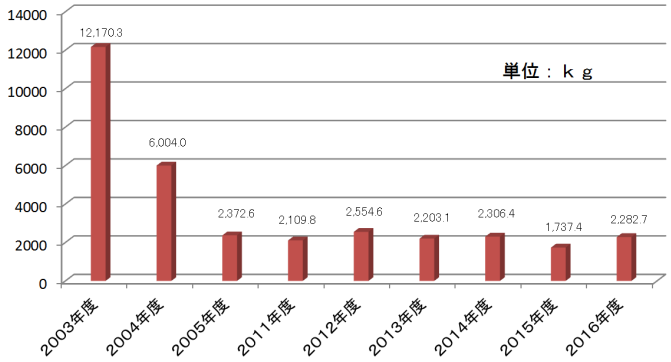
6. 環境関連施設 or 学校の見学･訪問

年１回以上が目標。昨年度は２回行い、合計約５０名の生徒・教職員・保護者が参加。１回目は臨海部にあるリサイクル産業の拠点「スーパーエコタウン」、２回目は上野動物園・すみだ水族館の舞台裏の見学でした。

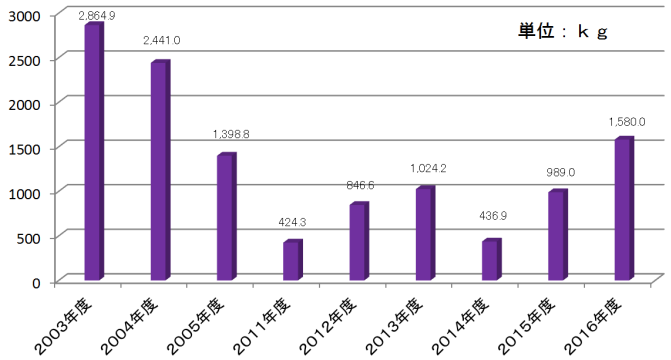
7. ゴミの再資源化と減量

後述しますが、本校の教室にゴミ箱はありません。資源をリサイクルに出して廃棄物を減らすため、ゴミは校内に６つある「ステーション」に分別して捨てます。最終的にゴミ倉庫に集まったゴミ・資源を週一回、さらに分別し直します（上写真）。

↓可燃ゴミ（一般廃棄物）の排出量のデータ



↓不燃ゴミ（産業廃棄物）の排出量のデータ



目標は「過去一定期間（昨年度は 2008～10 年度）の平均値を維持」。一昨年度までは順調でしたが、昨年度の途中から紙・プラスチック資源のリサイクル環境が悪化したため、不燃ゴミを中心に量が増えてしまいました。元どおりに資源を回収してもらう方法を模索するとともに、リユース・リデュースの普及策を見つけるべきだと考えています。

8. アンケートの実施

目標にしたがって、年度に１回、全校生徒の意識調査を実施して集計しています。昨年は 12 月に実施。本校が行っている活動については評価が高い一方、自身の意識や活動については控えめな評価をしている、などの傾向が分かりました。

★生徒の活動

9. ＩＳＯ委員会

2006 年度から生徒会の組織になりました（それまでは有志による組織）。朝の呼びかけ、昼の分別指導、ゴミの再分別・計量、環境サミットの企画・運営などを行っています。

また、役員は「ＩＳＯ推進責任者」になり、教職員・保護者とともに、学校の環境活動を企画・点検する「ＩＳＯ推進委員会」のメンバーを務めています。

10. 今月の目標と「つばさ環境の日」

毎月１回「つばさ環境の日」を定め、朝の登校時間に ISO 委員総出で「今月の目標」を呼びかけます（下写真左）。

目標を書いた看板は、そのまま次の「環境の日」まで生徒玄関に掲げられます（同右）。

「今月の目標」は毎月の委員会で決めますが、家庭や出先でも実践できる内容にして、取り組みを校内だけにとどめないよう心がけています。

＝最近の目標から＝

『「袋いりません」の一言を』『最後の人が電気を消そう』『マイボトルで涼しい夏を』『暖房の設定温度を下げよう』

11. 広報紙「USO800」発行

「今月の目標」に沿って、目標のための具体的な手立てや意義・効果などを紹介する広報紙です。ISO 委員の生徒が執筆・編集し、毎月全校に配られます。また公式ブログ上にも掲載し、地域などでのイベント参加時にも配布しています。

「USO800」という題名には、「環境について何が正しいのか、実は誰にも正解は分からない」…そんな意味を込めています。もちろん意図的に“うそ”は書きませんが（笑）。

12. ゴミステーション・ゴミ倉庫で

前述の通り、つばさ総合高校の各教室にはゴミ箱がありません。分別を徹底して資源を回収するため、ゴミは校内６カ所にあるステーションに捨てることになっています。

放課後の回収では、単に集めるだけではなく分別の手直しもします。全生徒が一度は経験するように当番を組んでいます。

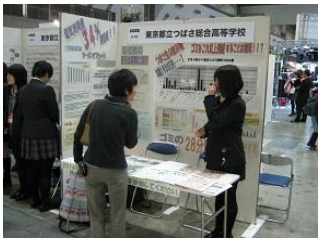
さらに「環境週間」として、毎月のうち一定期間、ＩＳＯ委員が交替で昼休みの分別指導を行っています。

なお、前記の「週一回、さらに分別し直す」作業もＩＳＯ委員が交替で行っています。

13. 研究活動と交流・発表への参加

ＩＳＯ委員会の役員・有志で、研究活動を行っています。最近のテーマは「カーボンオフセット」。昨年度も本校の環境サミット（後述）で出たＣＯ２をオフセットしつつ、この仕組みを普及させる方法を研究・実践しました。「イオンエコワングランプリ」で文部科学大臣賞に輝くなど、生徒の研究・実践は高い評価を受けています。

また、「高校生自然環境サミット」「高校生環境フォーラム」などに参加して他校と交流・学習をしたり、地元の行事や全国的なイベントで取り組みを発表したりしました。



14. 高校生環境サミット

前述した「他校との交流行事」。どなたでも出展・来場できる「環境についての学習・交流イベント」です。教職員や保護者も手を貸しますが、企画や当日の進行は生徒中心で行います。

１３回目の前回は１６年 11 月２３日（祝）に開催。高校・大学・企業・地域などから約 200 名が集まりました。

今回にテーマは「川と生命（いのち）」。開会行事の後、今回は星槎大学副学長・鬼頭秀一先生に自然環境と人間とのかかわりについての講演をいただき、会場全体で意見交換。続いて主催の生徒たちから、前回のこの行事で出た CO2 を「クレジット」を購入してオフセットすることが発表され、購入先の南アルプス市関連の団体の方にご登壇いただいて「購入式」を行いました。

午後はまず、高校生や大学生、企業、ＮＰＯによる展示・体験プログラムを自由に訪問できる「パネル展示」。今回は 22 団体が参加し、一般来場者を含む多くの方が各団体の取り組みを興味深く見たり触れたりしていました。そして最後の「高校生の実践発表」では、３校の実践・研究に対して盛んに質疑が出されました。今回も、世代や立場を超えて学び合える一日でした。

原則として例年１１月２３日に行います。次回は皆さんも、ぜひお越しください！

↓クレジット購入式

↓基調講演と、意見交換での発言風景（全体会場「つばさホール」にて）↓

↓高校生の実践発表

↓パネル展示・体験プログラムの様子（ラウンジとホームルーム教室を使った特設会場にて）

★その他の「環境のために」

15.「環境管理項目」

学校にも以下のような、環境関連の法規により管理の方法が定められている施設や物品があります。それらの管理が適正かどうかを推進委員会で計画的にチェックしています。環境に悪影響を与えないよう適切に施設を管理することも、立派な環境保全活動です。

●化学薬品、油庫、器具庫（PCB）、ボイラーの管理

●法的その他の要求事項の確認

●騒音に対する苦情の有無　●騒音計測機器の校正

また、前記「８つの目標」以外で環境負荷低減のために必要と思われる事柄も、環境管理項目またはそれに準じる形で監視をしています。

●コピー用紙の使用量

●上水道・ガスの使用量

16. 省エネルギーのために

家庭での省エネ対策

上記の「USO８００」や毎月の「今月の目標」は、校内の取り組みだけを対象にしているわけではありません。

夏冬が中心になりますが、家庭での冷暖房の使い方、シャワーやガス器具などの使用節減といった「家でできること」も呼びかけの対象です。

照明・冷暖房の運用の取り決め

学校全体で話し合っています。

とはいえ、東京都も自らの「省エネルギー」「CO2 排出量削減」を徐々に強める流れになってきています。電気やガスの使用量を節減する方向で運用は進んでいくでしょう。震災・原発事故の反省を踏まえても、そうなるべきだと考えています。

17. ボランティア活動

★地域の資源回収への協力…リサイクル資源のうち、古紙は地元町内会へ寄付します【下写真左】

★ペットボトルキャップ回収【下写真右…後述】

18. ゴミの削減のために

ペットボトルキャップ回収

学校で飲まれたものから出るキャップの他、各家庭のもの、さらに区の出張所と協力して地域対象の回収もしています。

集まったキャップについては、「エコキャップ推進協会」が仲介する業者さんに集荷に来てもらっています。約５年半で 1,115,695 個を引き渡しました（焼却の場合と比べて CO2 排出量を 8,587kg 削減）。

キャップは建材・筆記具などにリサイクルされます。その収益がよく言われるようにワクチンの購入資金となります。

↑出荷前に異物をチェック

キャップの受領証→

エコキャップ
受領書

2012年2月7日

つばさ総合高等学校（東京都立）
様

NPO法人（内閣府認証）
エコキャップ推進協会
ECOCAP
〒231－0047
TEL.045-250-0294
FAX.045-250-0295
http://ecocap007.com/

FAX番号 03-5737-0154

今回受領個数：56,000 個
累計個数：694,280 個
ワクチン：867.8人分

ご協力ありがとうございます。　皆様のご厚意を大切に致します。

受取日	数量	個数(約)	備考
2012/01/31	140 Kg	56,000 個	
合計		56,000 個	

1Kgを400個として計算しています。800個でポリオワクチン1人分が購入できます。
1Kg(400個)が焼却されると3.19kgのCO2が発生します。

ですが、もちろんペットボトルはなるべく買わずに、お茶や水はご家庭からマイボトルなどで持ってくる方が環境的にはよいと考えています。「もしペットボトルで飲んでしまったら、キャップは回収へ」という位置づけの回収です。

グラウンドシューズのリユース

多くの卒業生が置いていくグラウンド用の靴。以前は、ＮＰＯ団体を通じて開発途上国へ寄付していました。

ですが、本来は卒業生たち自身が持ち帰るべきものですし、本人が運動靴として使い続けるのが最も効率のいいリユースでもあります。

そこで、現在は各自が持ち帰るようにしています。昨年度も卒業前から持ち帰りを呼びかけ、ほぼ実現しました。

19. 新入生・転入教職員への教育

新入生は入学後すぐに、つばさの環境活動について推進委員会所属の教職員から教育を受けます。新任・転入の教職員についても、着任後すぐに本校の環境活動とそのシステムについて教育を受けます。これらの教育訓練を、本校は ISO14001 の枠組みの中で自らに義務づけています。

東京都立つばさ総合高等学校　ISO 推進委員会

〒144-8533　東京都大田区本羽田 3-11-5

電話　03(5737)0151　　FAX　03(5737)0154

http://www.tsubasa-h.metro.tokyo.jp/

e-mail：tsubasa@tsubasa-h.metro.tokyo.jp

つばさ総合高校のゴミ資源の分別について

☆ゴミステーション☆

①可燃ゴミ	②弁当容器専用	③飲料紙パック専用	④生ゴミ	⑥缶
絵具のついた紙 紙くず **ティッシュ** 布マスク・ほこり 木くず30センチ以内 新聞紙の切れ端 菓子のゴミ **チョーク**	**購買等弁当容器** ビニール類 発泡スチロール （小さい物のみ）	飲料紙パック	残飯 （液体でないもの） **⑤紙・古紙専用** プリント・画用紙 包装紙・空き箱	カン（スチール） アルミ缶 ＊中身をぬいておく **⑦ペットボトル** ＊中身をぬいておく **⑧ペットキャップ**

チョークの粉・カス**のみ**を小さな袋（コンビニなどのビニール袋等）に入れ、拡散しないように口を縛ってから、可燃ごみに捨ててください。

【表彰概要】

2003 年に ISO14001 の認証を受けて以来、同校では「エコスクールつばさ」の実現を目指し、学校をあげて多岐にわたる環境保全活動に励んでいる。

１．電気・都市ガス使用量の削減

都立高校でも有数の規模を持つ同校は、電気・ガス使用量が他校に比べて多かった。そこで、照明・冷暖房の使用に注意し、機関誌「US0800」や「つばさ環境の日」等による意識喚起により使用量削減を図った。ISO 取得前の 2003 年度に比較して 2008 年度は電気使用量 18%、ガス使用量 36%の削減を達成した。

２．廃棄物の削減・リサイクル

教室にゴミ箱を設置せず、生徒は学年に 2 ヶ所ある 8 分別のゴミステーションにゴミを持っていく。さらに、毎週 1 回 ISO 委員会の生徒が回収ゴミの徹底分別を行う。例えば「燃えるゴミ」の中から紙資源を抜き取り資源に加え、逆に「紙資源」に混入している割り箸などを抜き取る作業である。このような徹底した分別作業により、「燃えるゴミ」や「燃えないゴミ」の排出量は 2003 年度に比較して約 75%削減を達成した。

また、捨てられる様々なものを生徒が直接見る事により、もったいなさに気がつき、生徒自らリユースやリサイクルを考え、新しい活動につなげている。例えば

①ペットボトルキャップを回収してワクチンにできる団体に寄付する。

②卒業生が捨てていったズックを洗い直して海外へ寄付する。

③使えなくなったテニスボールを使ってくれる受け入れ先に譲渡する。

④本校のゴミ倉庫に集まった雑誌などを、地域の資源回収の日に拠出し、生徒や教員・保護者も地域の資源回収に協力して町内を回る活動を行っている。などである。

ゴミステーション

毎週1回の分別作業